MC361dn/MC561dn クイックガイド

お客様相談センター
0120-654-632
携帯電話からは 03-5846-5921
受付時間　月曜日～金曜日　9：00～20：00、
土曜日　9：00～17：00
（但し、祝日、年末年始等を除く）
※上記以外にも弊社都合によりお休みをいただくことがあります。

各部の名称

原稿のセット方法

自動原稿送り装置（ADF）または原稿ガラスを使って原稿をセットし、コピー、スキャン、またはファクス送信することができます。

■ 原稿を自動原稿送り装置にセットする

1 原稿を表にして自動原稿送り装置にセットします。

縦向きの原稿の場合、原稿の上端から入っていくようにセットします。

横向きの原稿の場合、原稿の左端から入っていくようにセットします。

2 原稿の幅に合わせて、原稿ガイドを調節します。

■ 原稿を原稿ガラスにセットする

1 原稿ガラスカバーを開きます。

2 原稿を裏にして、原稿ガラスにセットします。

縦向きの原稿の場合、原稿の上端とガラスの左上の角を合わせます。

横向きの原稿の場合、原稿の右端とガラスの左上の角を合わせます。

3 原稿ガラスカバーを静かに閉じます。

メモ
● 詳しい手順は、ユーザーズマニュアル 基本編をご覧ください。

スキャン To E メール

スキャンしたデータを E メールに添付できます。

1 操作パネルの＜**スキャン**＞キーを押します。

2 原稿を自動原稿送り装置または、原稿ガラスにセットします。

3 ［**メール**］が選択されていることを確認し、OKを押します。

4 ［**宛先追加**］が選択されていることを確認し、OKを押します。

5 ［**To**］が選択されていることを確認し、OKを押します。

［**Cc**］または［**Bcc**］を選択する場合は、▼を押し、OKを押してください。

6 宛先を指定します。

宛先は、直接入力、アドレスブック、グループリスト、送信履歴、LDAP 検索のいずれかの方法で指定します。

7 （モノクロ）または（カラー）を押します。

メモ
● 詳しい手順は、ユーザーズマニュアル 基本編をご覧ください。

スキャン To USB メモリ

スキャンしたデータを、USB メモリに保存できます。

1 操作パネルの＜**スキャン**＞キーを押します。

2 原稿を自動原稿送り装置または、原稿ガラスにセットします。

3 USB メモリを、本機の USB ポートに差し込みます。

注
● USB メモリは、USB ポートにまっすぐ差し込みます。正しい角度で挿入しないと、USB ポートを傷つけることがあります。

4 ▼を押して［**USB メモリ**］を選択し、OKを押します。

5 ▼を押して必要に応じて読み取り設定をします。

6 （モノクロ）または（カラー）を押します。

7 USB メモリを安全に取り外しできることを示すメッセージが表示されたら、USB メモリを取り外します。

メモ
● 詳しい手順は、ユーザーズマニュアル 基本編をご覧ください。

コピーします

1 操作パネルの＜**コピー**＞キーを押して、スタート画面を開きます。

2 原稿を自動原稿送り装置または、原稿ガラスにセットします。

3 必要に応じて、コピー設定を変更します。

4 テンキーで部数を入力します。

- 1～99 部まで入力できます。
- 間違えて入力したときは、＜**クリア**＞キーを押して入力しなおします。＜**クリア**＞キーを押すと、もとの設定値に戻ります。

5 （モノクロ）または（カラー）を押してコピーを始めます。

メモ
● 詳しい手順は、ユーザーズマニュアル 基本編をご覧ください。

ファクスを送信します

メモ
● 原稿の読み取りには、自動原稿送り装置が優先的に使用されます。原稿ガラスを使用するときは、原稿を自動原稿送り装置にセットしないでください。

1 操作パネルの＜**ファクス**＞キーを押します。

2 原稿を自動原稿送り装置または、原稿ガラスにセットします。

3 ［**ファクス**］が選択されていることを確認し、OKを押してスタート画面を開きます。

4 スタート画面で［**宛先追加**］が選択されていることを確認し、OKを押します。

5 宛先を指定します。

宛先を指定するときは、テンキーによる直接入力、短縮ダイヤルリスト、宛先グループリスト、送信履歴、受信履歴、ワンタッチキーを使用できます。

6 必要に応じて、応用設定を変更します。

7 （モノクロ）を押して、送信を始めます。

原稿ガラスを使用した 1 回のファクス操作で、複数の原稿を読み取りたいときは、継続読取モードを有効にします。

注
● （カラー）は使用できません。

メモ
● 詳しい手順は、ユーザーズマニュアル 基本編をご覧ください。

トナーカートリッジの交換

1 新しいトナーカートリッジを準備します。

2 スキャナ部を開きます。

3 トップカバーオープンボタン（1）を押し、トップカバーを開きます。

⚠注意	やけどのおそれがあります。
● 定着器ユニットは高温になっていますので、触らないでください。	

4 ラベル（2）の色で、交換するトナーカートリッジを確認します。

5 トナーカートリッジの青いロック（3）を右側にスライドさせ、ロックを解除します。

6 トナーカートリッジを右端から持ち上げ、取り出します。

⚠警告	やけどのおそれがあります。
● 使用済みトナーカートリッジは絶対に火の中に入れないでください。中に入っているトナーが飛び散り爆発し、やけどのおそれがあります。	

7 新しいトナーカートリッジを開封し、上下左右に数回振ります。

メモ
● K トナーカートリッジの形状は、ほかのカートリッジと異なります。

8 新しいトナーカートリッジの色のラベルとイメージドラムユニットの色のラベルの位置が合うように、トナーカートリッジの左端の突起（6）をイメージドラムユニットの穴（7）に合わせて差し込み、右側も確実にセットします。

9 トナーカートリッジの青いロック（3）を左側にスライドさせ、ロックします。

10 柔らかいティッシュペーパーで 4 個の LED ヘッド（8）を拭きます。

11 トップカバーを閉じます。

12 スキャナ部を閉じます。

メモ
● 詳しい手順は、ユーザーズマニュアル 基本編をご覧ください。

紙づまりになったとき

⚠注意 やけどのおそれがあります。

- 定着器ユニットは高温になっていますので、作業は慎重に行い、持ち上げるときは必ずハンドルを持ってください。熱いときは無理をせず、冷めるまで待ってから作業を行ってください。

（注）
- イメージドラム（緑の筒の部分）は、非常に傷つきやすいため、取り扱いには十分注意してください。
- イメージドラムユニットは、直射日光や強い光（約 1500 ルクス以上）に当てないでください。室内の照明の下でも 5 分以上は放置しないでください。

エラーコード 370、371、372

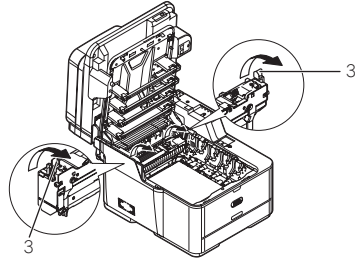
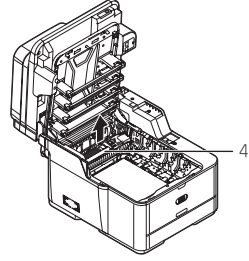
1 原稿トレイに原稿がある場合は取り除きます。

2 スキャナ部を開きます。

3 トップカバーオープンボタン（1）を押し、トップカバーを開きます。

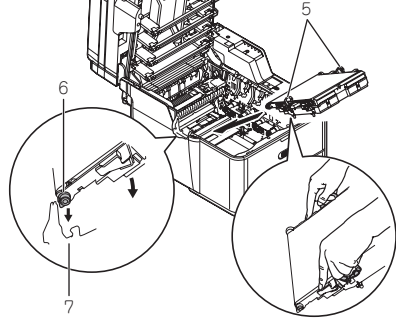
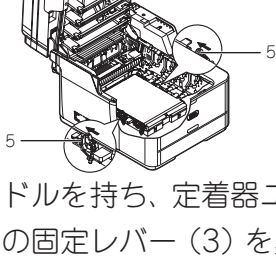
4 イメージドラムユニットの青いハンドル（2）を両手で持ち、本機から取り出し、平らな場所に置きます。

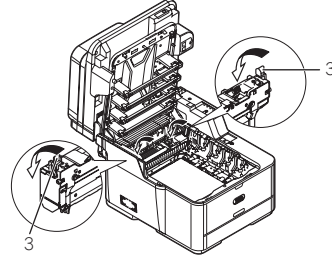
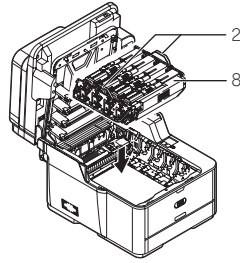
イメージドラムユニットを黒い紙または黒い袋で覆います。

5 定着器ユニットの両側の固定レバー（3）を手前に倒し、ロックを解除します。

6 定着器ユニットのハンドル（4）を持ち、本機から定着器ユニットを取り出します。

7 ベルトユニットの両側の青いロックレバー（5）に指を入れ、ロックレバーを手前に起こし、ベルトユニットを取り出します。

8 つまった用紙を矢印の方向に取り出します。

9 ベルトユニットの両側の青いロックレバー（5）を両手で持ち、本機に戻します。

ベルトユニットの左右先端にあるローラ（6）を本機内部の溝（7）に引っかけてから、ベルトユニットの後部をおろします。

10 ベルトユニットのロックレバー（5）を奥側に倒し、ロックします。

11 定着器ユニットのハンドルを持ち、定着器ユニットを本機に戻します。

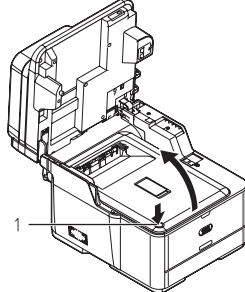
12 定着器ユニットの両側の固定レバー（3）を奥側に倒し、ロックします。

13 イメージドラムユニットの青いハンドル（2）を両手で持ち、K トナーカートリッジ（8）の位置が手前になるように本機に戻します。

14 トップカバーを閉じます。

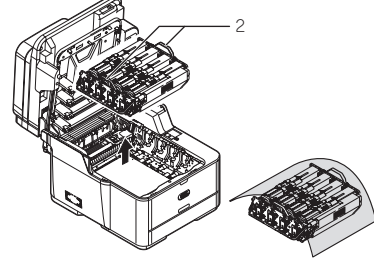
15 スキャナ部を閉じます。

エラーコード 380、381、382、385、389

1 原稿トレイに原稿がある場合は取り除きます。

2 スキャナ部を開きます。

3 トップカバーオープンボタン（1）を押し、トップカバーを開きます。

4 イメージドラムユニットの青いハンドル（2）を両手で持ち、本機から取り出し、平らな場所に置きます。

イメージドラムユニットを黒い紙または黒い袋で覆います。

5 つまった用紙が見えたら、矢印の方向へ引き抜きます。

つまった用紙が本機内部の手前側にあるときは、矢印の方向へ引き抜きます。

用紙が定着器ユニットにはさまっているときは、定着器ユニットの青いレバー（3）を矢印の方向に押しながら、用紙を手前に引き抜きます。

6 イメージドラムユニットの青いハンドル（2）を両手で持ち、K トナーカートリッジ（4）の位置が手前になるように本機に戻します。

7 トップカバーを閉じます。

8 スキャナ部を閉じます。

エラーコード 390

1 原稿トレイに原稿がある場合は取り除きます。

2 スキャナ部を開きます。

3 トップカバーオープンボタン（1）を押し、トップカバーを開きます。

4 イメージドラムユニットの青いハンドル（2）を両手で持ち、本機から取り出し、平らな場所に置きます。

イメージドラムユニットを黒い紙または黒い袋で覆います。

5 本機内部の透明のカバー（3）を開け、つまった用紙を取り除きます。

6 イメージドラムユニットの青いハンドル（2）を両手で持ち、K トナーカートリッジ（4）の位置が手前になるように本機に戻します。

7 トップカバーを閉じます。

8 スキャナ部を閉じます。

エラーコード 391、392

エラーコード 391 はトレイ 1 で、エラーコード 392 はトレイ 2 で紙づまりが起こったことを示します。

- ここではトレイ 1 を例にしています。

1 トレイを引き出します。

2 つまっている用紙を取り除きます。

3 トレイを本機に戻します。

4 スキャナ部を開きます。

5 トップカバーオープンボタン（1）を押し、トップカバーを開けます。

6 トップカバーを閉じます。

7 スキャナ部を閉じます。

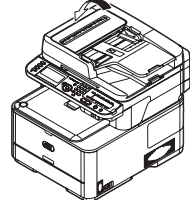
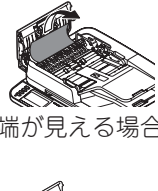
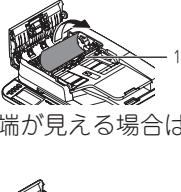
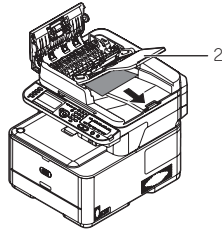
原稿づまりが発生しました。

■ 両面搬送路から原稿が見える場合

1 ADF カバーを開き、原稿を上方向に引き抜きます。

■ 自動原稿送り装置内部で原稿づまりが起きた場合

1 原稿トレイに原稿がある場合は取り除きます。

2 ADF カバーを開きます。

3 つまった原稿の先端を持って、ゆっくり引き抜きます。

用紙ガイド（1）の下に原稿の先端が見える場合は、用紙ガイドを持ち上げて原稿を引き抜きます。

原稿トレイ（2）の下に原稿の先端が見える場合は、原稿トレイを持ち上げて原稿を引き抜きます。

原稿トレイをおろします。

4 ADF カバーを閉じます。